

2023年度 事業者自己評価表 児童発達支援

		チェック項目	工夫、取り組み、改善点など
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	お子様の個別及び集団活動スペースを設定し、一人一人のスペースを十分確保できる定員にしています。
	2	職員の配置数は適切であるか	お子様2人に職員1名以上を配置しています。お子様のニーズに合わせて1対1での対応もしています。
	3	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	こかげは2階にありますが、エレベーターが設置されています。構造化や視覚支援等を通して一人一人が理解できる環境設定をしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	日々、清掃と消毒作業を実施しています。月に1回は業者による清掃を行っています。また、定期的にエアコンフィルター清掃、害虫駆除、受水槽清掃も実施しています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	適宜全職員が参加する会議を設け、支援内容等についての情報共有を図っています。さらに今後はPDCAサイクルを計画的に行っていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	年1回、事業所から保護者の方向けのアンケートを実施し、保護者の方からのご意見を踏まえて次年度の計画を立てています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	年1回、事業所評価を行っています。評価の結果及び改善点等はホームページで公表しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者評価は行っておりません。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	障害特性、構造化、PECSなどについての内部研修の実施、及び外部研修受講により、支援の向上に勤めています。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	日々の支援の中でお子様のアセスメントを実施しています。また、保護者の方との面談、フィードバックの時間の中でアセスメントを実施し、課題解決に向けた計画を作成しています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	アセスメントシートを使用していますが、アセスメントツールの活用が今後の課題です。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	「発達支援」「家族支援」「地域支援」を支援の根幹にしています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	支援計画を基に支援を実施し、記録を作成しています。それらの記録を基にモニタリングを実施しています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	児童発達支援管理責任者とプログラム立案担当職員を中心に、スタッフ間で話し合いながら活動プログラムの検討をしています。
	15	活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか	お子様の経験を広げるために、調理メニュー、制作メニューなどに変化をつけています。一方でASD(自閉症スペクトラム)のお子様が多いため、大幅な変更による混乱が生じないよう、スケジュールはあえて変更を少なくしています。また、変更がある場合は事前にスケジュールで伝えていきます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成しているか	基本的には集団活動を提供していますが、お子様のニーズや課題に応じて個別活動を提供しています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	当日の担当者は個別ファイルを通して前回までのお子様の様子や引継ぎ事項を確認しています。また、その日の活動について職員間で打ち合わせを実施し、必要な情報を共有しています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	支援終了後の打ち合わせを全職員では行ってはいませんが、必要に応じて振り返りから改善策の話し合いを実施しています。
	19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	個別の記録用紙に記入し、個別支援計画に沿った記録とADLやコミュニケーション等の領域別の記録をしています。支援の振り返りと改善に活用しています。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	半年に1回、モニタリングを実施し、計画の見直しの検討を行っています。	

関係者や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	カンファレンス等が行われる際には、児童発達支援管理責任者が参加しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	障害児関係機関連絡会などを通して情報交換を行い、必要に応じて、区のケースワーカーや療育センターのソーシャルワーカーと連携をとっています。
	23	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	
	24	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	必要に応じて、園等へ連絡・訪問などし、情報共有を図っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	必要に応じて、学校等へ連絡し、情報共有を図っています。カンファレンスが実施される場合は参加しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	障害児関係機関連絡会へ参加しています。必要に応じて基幹相談支援センターや療育センターと連携をしています。一部の児童発達支援事業所とはケース会議を設け、支援の情報共有を行っています。
	28	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	公園で、他の保育園児らと一緒に遊ぶことはありますが、意図的に交流の場は設けていません。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	鶴見区の障害児関係機関連絡会へ参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	保護者の方による送迎の際やフィードバックの時間に保護者の方とお話する時間を設けています。また必要に応じて、電話でお伝えしたりお話を伺ったりしています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	保護者の方が活動の様子を見たり、参加したりする機会を設け、お子様への関わり方を実際に見て知っていただけるようにしています。
保護者への説明責任等	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約面談時に説明しています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	ガイドラインの説明は行っていませんが、それに基づいて作成した支援計画の説明は行い、署名捺印をいただいています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言や支援を行っているか	保護者の方による送迎の際やフィードバックの時間に保護者の方とお話する時間を設けています。また必要に応じて、面談を行っています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	父母会は現在行っていませんが、引き続き保護者懇談会や勉強会の実施を検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	相談や申入れがあった場合は、事業所内で対応を検討しますが、相談内容によっては法人本部へ報告し迅速な対応を行うようにしています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	会報を中心に活動の内容を保護者の方にお伝えしています。月の予定表は、ホームページ上に掲載しています。
	38	個人情報に十分注意しているか	「個人情報使用同意書」や「写真使用承諾書」などで確認を取った上で、情報の管理、取り扱いにも注意を払っています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のため配慮をしているか	視覚支援を中心に、一人一人が理解できる方法で伝えています。保護者の方にも連絡事項等わかりやすい言葉や表現を使ってお伝えしています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	地域住民を招くプログラムを行っていません。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	各マニュアルを策定していますが、職員間の共有が不十分のため、会議を通じて全ての職員が把握できるようにしていきます。保護者の方への周知も不十分と感じていますので、周知の方法を検討していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	年に2回、全曜日「火災」「地震」想定避難訓練を行っています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	契約時に確認し、その後も必要に応じて聞き取りを行っています。職員は法人内看護師の講習を受講し、緊急時対応が出来るようにしていますが、受講できていない職員がいることから、再度研修機会を設定します。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	アナフィラキシーショックに対しては、医師の指示書のもと、必要に応じて対応を行います。職員は、法人内看護師の講習を受講するようにはしていますが、受講できていない職員がいることから、再度研修機会を設定します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハット事例は記録として残し、会議を通して職員間で共有しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	虐待や身体拘束について年1回は職員研修を実施しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	やむを得ず身体拘束を行う必要がある場面の検討を行い、決定にあたっては複数の職員の意見を取り入れ、保護者の方とお子様説明をしていきます。